

在日朝鮮人「慰安婦」宋神道のたたかい

オレの心は 負けてない

●制作 在日の慰安婦裁判を支える会 ●監督 安海龍 ●撮影 梁澄子、安海龍、朴正植 ●編集 田中藍子
●効果編集 金徳奎 ●音楽 張在孝、孫晟勲 ●ナレーション 渡辺美穂子



『オレの心は負けてない』上映会 ～「戦争と女性の人権博物館」建設に向けて～

この3月「戦争と女性の人権博物館」の建設が着工される予定です。博物館は韓国挺身隊問題対策協議会が中心となって、ソウルに建設されます。しかし資金は不足しています。今回の映画上映は博物館建設のための資金支援活動として企画しました。

「在日」で唯一裁判を闘われた宋神道ハルモニの人生に接してみてください。そして博物館建設のために協力してください。よろしくお願いします。

2月22日(日)2時から(開場1時半)

浪速人権文化センター(JR芦原橋下車すぐ)

上映協力券:1000円

主催:リブ・イン・ピース☆9+25

(旧・アメリカの戦争拡大と日本の有事法制に反対する署名事務局)

<http://www.liveinpeace925.com/>

090-5094-9483



**この映画上映は「戦争と女性の人権博物館」建設のために開催され、
収益金はすべて人権博物館建設委員会に寄付されます。**

映画『オレの心は負けてない』とは

宋神道さんは「在日」で名乗り出られ裁判を闘った唯一の「慰安婦」被害者です。

朝鮮の忠清道生まれ。16歳の時騙されて中国の慰安所へ。7年後、再び騙されて敗戦後の日本に渡り、半世紀以上が経ちました。「慰安婦」として深い心の傷を負い、そして戦後日本の差別社会はその傷をただ深くするだけでした。

そんな宋神道さんは93年、日本政府に謝罪と補償を求めて東京地裁に提訴します。揺れる心を抱えたまま、ただ日本の国に謝って欲しい一心で。裁判には多くの人が支援に関わり「在日の慰安婦裁判を支える会」が結成されました。

裁判を闘う宋神道さんの中に、変化が生まれました。カチカチに固まった人間不信が少しずつ氷解したのです。多くの人に自分を認めてもらうこと、そして彼女の傷を丸ごと受け止めようとする「支える会」メンバーとの心の交流が、癒やしがたい心の傷を回復させ始めたのです。

映画のタイトルともなった「オレの心は負けてない」は、宋神道さん自身の言葉です。裁判には負けましたが、それは決して宋神道さん自身の敗北ではありませんでした。映画では、そんな宋神道さんの被害回復と尊厳を取り戻す姿が克明に描かれています。



宋神道さんを始めとして多くの「慰安婦」被害女性が、平和の尊さを訴えています。そんな彼女たちの被害と闘いを歴史に刻むことは、日本に住む私たちにとっても重要です。ぜひとも今回の映画上映に参加し、「戦争と女性の人権博物館」建設に協力してください。



吉元玉ハルモニは訴える なぜ「戦争と女性の人権博物館」が必要か？

なぜ博物館が必要かというと、この歴史を残さなければいけないからです。痛みを抱えた人たちの歴史、戦争の負の歴史をそのまま埋もれさせてしまっただけではいけないからです。だから形にしていきたい。何かがあれば行き交う人々が見ることができ、若い人から年配の人までこんな事実があったんだなと見て話すことができる。事実がこうだったと私たちが知ってこそ、次の世代、私たちの子孫が安らかに暮らすことができるからです。後の世代に同じようなことがあってはいけないからです。

国ときちんと建てていくにはきちっと歴史を学ばなければなりません。そういう意味でも博物館を作る過程にみなさんにも参加して欲しい！



仲間もいなかった、家族も親戚もいなかった自分の一生でできる何かを持っているわけではないですが、こんな体を引きずって戦争のない国、平和な国を作ろうと叫んでどこにでも出かけて話をしていく理由があります。本当に戦争のない国を作ってこそ次の世代がこれから安らかに安定的でそして豊かな世の中になるからです。そういう年寄りの思いにみなさんも支えてぜひ協力してくれるようお願いしたいと思います。